

ダートマスカレッジのラーニングコモンズの理想をさらに高くかかげるために

Head of Digital Media and Library Technologies, Dartmouth College

アンソニー・ヘルム

はじめに

ベーカー・ベリー図書館複合施設は、物理的にも精神的にも、ダートマスカレッジのキャンパスの中心に位置しています。キャンパスにある多くの図書館の中で最大の施設というばかりでなく、教員、職員、学生、来訪者など、もっとも多くの人が行き交う場所です。また、大学の施設の中でも、ベーカー・ベリーで働く職員数は最も多く、それぞれ図書館、コンピュータサービス、作文・修辞学研究所 (IWR)、ダートマス学習推進センター (DCAL) での仕事に携わっています。2012 年からは、学生・履修指導部長室もこの施設内に設けられました。この施設は全体として、キャンパスの学究生活における重要な役割を果たしています。

2008 年に、ダートマスの教育や学習を今後も支援し続けるために何を改善したらよいかを明らかにし、改善を提案するため、図書館とコンピュータサービスの学術コンピュータ部門が、ベーカー・ベリー複合施設の評価を行いました。ラーニングコモンズおよびインフォメーションコモンズを作ることをめざしたこの取り組みには、他の多くの機関からも知識や情報が与えられ、21 世紀の個別学習および共同学習を推進し実現する様々な支援サービス、技術、機能スペースがここに集結することとなりました。このプレゼンテーションは、図書館学習スペース研究部会 (2010 年) とベリー・インフォメーションレファレンスデスク計画部会 (2009 年) の報告書、およびそれ以降に実施された改良点の概要をまとめた要約です。

背景

ベーカー・ベリー図書館複合施設は連結された 2 つの建物から構成され、芝生のすぐ北側、キャンパス中央部に位置しています。フィラデルフィアの独立記念館からヒントを得て設計されたこのベーカー記念図書館がオープンしたのは 1928 年のことでした。ここには 24 万冊の蔵書に加えて、将来の蔵書の増加を見越したスペースが設けられました。さらに学生や教員の研究、学習、語らいのための数多くのスペース、すなわち 1913 年同期生の文献図書室、タワー読書室、1902 年同窓室、ハフズ・ルーム (貴重品庫)、それにホセ・クレメンテ・オロスコの壁画「アメリカ文明の叙事詩」のあるリザーブ廊下などが設けられました。東西に走るこの大廊下には、蔵書のカード目録が置かれていました。その蔵書は現在では 250 万冊を数えるほどに増えています。蔵書が増えるにしたがって目録作成技術も変化し、物理的なカード目録の役割は減少してゆき、2000 年にオープンしたベリー図書館の

正式な落成式を行った 2002 年をもって、カード目録は全面廃止となりました。

ベリー図書館は、21 世紀の図書館にふさわしく設計されています。新教室、カフェ、学習スペースをさらに増やしたほか、ジョーンズ・メディアセンターが新設されて、図書館におけるテクノロジーの性能や存在感が増し、学術コンピュータ部門の協力により、教育と学習に利用できる資源がさらに充実しました。またベリー図書館ができたことで、蔵書収容能力が 100 万冊から 200 万冊に拡大しました。また、この建物は柔軟性を持つよう設計されていて、オープンアーキテクチャを多用し、進化する図書館のニーズに応えられるようになっています。

今日、ペーカー・ベリー図書館は、数多くの教員と学生の学びの場として成功をおさめており、建物内にある組織が互いに協力できる、健全な環境を作り出しています。図書館のセキュリティゲートで記録されたピーク時の利用者数は約 1 万人で、学期中は週平均 114 時間開館しています。しかしながら私たちは、ベリー図書館がオープンしてからのこのわずか 10 年の間に、図書館利用者の蔵書や施設の使い方が変化してきていることを認識しています。

技術の進歩により、物理的な図書館の役割は、「もの」の場所（ものがあるところ）から「行動」の場所（何かが起こるところ）へと大きく変化しました。デジタルでアクセスできる資料が増加したということは、物理的な書物を買う必要が減っただけでなく、これらの資料にアクセスするのに、利用者は必ずしもみずから図書館に足を運ばなくてもよいということの意味します。デスクトップ・コンピュータから、もっと安価で強力なノート型パソコンやモバイル機器への移行、そして広範囲に無線インターネット接続が可能になったということは、学生が、当施設がつい最近まで提供していた伝統的なコンピュータ・ラボや有線接続を、もはや必要としていないということの意味します。ダートマスのような居住型キャンパスにとって、図書館は一人で勉強する場であり、人と会う場でもあります。図書館員から個人的な学習支援を受ける場であるとともに、グループで協力し合う場でもあります。教員と会い、友達と気軽に会う場でもあります。また、教員が図書館員、技術者、教育設計者らとともに、教育と学習の向上をはかる場でもあります。これが、私たちの作り上げようとしたラーニングコモンズの考え方でした。

学習スペース研究部会 (LSSG)

2008 年に設置された学習スペース研究部会には、各図書館内の現在および今後の学習スペースなど、図書館施設の現在の使用状況を評価し、各図書館内の教育・学習スペースを今後も支援していけるようにするには何を考える必要があるかを明らかにする任務が与えられました。

情報収集

LSSG はまず、図書館の使用について独自の仮説を作成しましたが、ラーニングコモンズに関する文献を見直し、他の機関の事例研究も検証しました。また、2003 年と 2008 年の「研究図書館協会（ARL）LibQUAL+調査」、「学長の図書館レビュー2007 年」、2009 年秋の抜き打ち施設調査など、数多くの図書館調査文書にも目を通しました。当時の図書館利用者の意見を聞くため、ベリー図書館の大廊下に掲示板を出し、「ベリー・レベルワン（ベリー図書館の 1 階）で好きなものは？足りないものは？」というような質問のアンケートを取ったり、ベリー図書館 1 階で仕事をする職員によるフォーカスグループを作って、考えや意見を聞いたりしました。

これらの活動によって明らかになったニーズとは：

- グループ学習スペースをもっと利用しやすくしてほしい
- もっと静かな個人の自習スペースがほしい
- もっと教員と学生が語らう機会がほしい
- もっと柔軟なテクノロジー対応の教育・学習スペースがほしい

施設改善のチャンス

LSSG の出した結論と提案は、図書館施設のいくつかの主な部分を改良するというものでした。この中には、ベーカー・メインホール、ベリー・ニュースセンター、ベリー・レベルワン、オロスコ・ルームなども含まれています。また LSSG は図書館内にデジタル・プレゼンテーション・スタジオを作ることも提案しました。

ベーカー・メインホール

2000 年代初めにカード目録のケースをすべて撤去して以来、メインホールは、主に他の場所へ行くための「通り道」でした。メインホールに置いてあるガラスケースは、常設プログラムとして図書館の蔵書を展示しているか、またはダートマスその他の学術活動を支援するためのスペースでした。この大きなスペースは、屋内で行う小会議や、フード美術館の作品展示や、その他のイベントにも用いられていました。普段は、数人の学生が窓際の細長いテーブルの高椅子に腰かけてくつろいでいるほかは、あまり使用されていませんでした。しかし LSSG は、この美しい設計を保存すべきだということに異存はないものの、ほんの少し手を加えればベーカー・メインホールはもっとずっと活発な屋内共有スペース学習スペースになると考えました。

提案

- 様々な座席エリアを作る：まるで家にいるような、ラグやフロアランプがあって居心

地のよい「低くて柔らかい」エリアや、ちょっとしたグループ活動のための「ハイテーブル」エリア。しかし、そこからでも、図書館の大きな窓からキャンパスの美しい芝生を眺めることができる。

- モバイル技術ユーザーにもっとホールを使ってもらえるように、その電気配線を刷新する。

結果

- 2011年に、LSSGが提案した様々な座席エリアを設け、電気系統を刷新したベーカー・メインホールの改装が完了しました。

将来の可能性

- モバイル充電コーナー
- 共同展示
- 書き込みボード

ベリー・ニュースセンター

ベリー・ニュースセンターは、学生が世界中のニュースや出来事を常に把握できる場所として作られたところです。部屋の各所に国内外の最新の新聞や定期刊行物が並んでいました。またケーブルテレビのニュース番組を映す大画面のテレビがいくつも並んでいました。残念ながらニュースソースは急速にネットへと移行したため、図書館が定期購読する印刷物の新聞の数は徐々に減少し、テレビ画面のニュースを聞くため利用者がヘッドホンを借りるという予想も完全に当てが外れました。こうして、「ニュースセンター」のニーズは大幅に減少しました。ベーカー・メインホールと定期刊行物閲覧室（CPR）の横という立地からも、この場所に新たな目的を持たせたほうがよいと考えられました。

提案

- コーヒー・バーを設け、この部屋を新たな社交の場に生まれ変わらせ、大学教員や上級の研究者らによる午後の読書会や研究会など、CPRで行われるプログラム作成活動の支援ができるようにする。
- テレビのニュース放映はそのまま続け、小さなコーヒーテーブルと椅子をいくつか置く。
- 蔵書の一部を並べ、新刊書を目立つように置いたり、教員の著書を展示したりする。

結果

- カフェとベーカーリーを設け、地元の業者「キングアーサー・フラワー」に経営を委託しました。壁に沿って教員の著書を並べ、使用者がコーヒーや紅茶やパンなどの順番

を待つ間、それを見ることができるようになっています。また、メインホールからもカフェを利用できるように、ベーカー・メインホールにあった陳列ケースをひとつ他へ移動し、スペースを作りました。この取り組みは大成功で、図書館の使用者全員に好評を得ています。

将来の可能性

- 「キングアーサー・フラワー」が成功したため、最終的には、カフェをもう少し拡張しなければならないかもしれません。

ベリー・レベルワン

以前、ベーカー・メインホールを鉄道の駅の待合室に、ベリー・レベルワンを空港のラウンジにたとえた学生のレポートがありました。ベリー・レベルワンは学習や研究によく使われていますが、「見たり見られたり」する場であることに変わりはありません。ここには、いくつかの学習テーブルとたくさんのパソコンデスクがあり、さらにそのスペースの大部分を参考図書が占めていました。大廊下的一方にはインフォメーションデスクがあり、図書館のサービスや建物の場所についての情報を提供したり、近くにある印刷ステーション（維持管理はコンピュータサービス部の担当ですが）についての質問に答えたりしていました。またインフォメーションデスクは、近くの出口から図書館の本や資料が持ち出されないように、セキュリティサービスも兼務することになっていました。廊下の反対側にあるベリー・レファレンスデスクでは、対面でのクイックレファレンスサービスを行ったり、学生やその他の図書館利用者に「直接情報を提供」したりする場となっていました。LSSGが設置されたとき、インフォメーションデスクとレファレンスデスクをひとつに統合してサービスを提供しようと、別の委員会がすでに動き始めていました。

出版のパターンや印刷物の使い方が変わってきたため、参考図書の数を減らし、フロアスペースを広げました。また、ノース・インフォメーションデスクとレファレンスデスクを統合してひとつの新しいサービスデスクを作り、利用者が、質問があるときにどこに聞けばいいのかすぐ分かるようにしました。このような変更を加えたことで、この図書館の中心部が持つ強みを生かすための多くの機会が生まれました。

提案

- 新しく統合したベリー・インフォメーション・レファレンスデスクを、図書館の北出口の第一のセキュリティポイントである、階段のそばに設ける。
- 学生が使いやすくアクセスしやすいように、スキャナー、コピー機、印刷機を一か所に集め、「生産エリア」を作る。
- 自立式のガラス壁やホワイトボードを持ち込み、電気のコンセントを増やして、グル

ープ学習エリアの数を増やす。

- このエリアの座席を改善し、居心地のよい魅力的な座席を増やす。

結果

- ふたつのデスクを統合したベリー・インフォメーション・レファレンスデスクは 2012 年に完成しました。レファレンスデスクを移動し、参考図書が減ってスペースが空いたため、学生の活動場所が増えました。
- インフォメーションデスクを移動して空いたスペースは、印刷ステーションに、コピー機、書籍スキャナー、資料作成テーブルが加わり、「生産エリア」に生まれ変わりました。
- 統合したデスクの後ろに、ガラス壁や書き込みボード、大型 LCD 画面のある、3 つの学習室を設け、共同作業に使うこととしました。ガラス壁は公共エリアと大階段に面し、「見たり見られたり」というベリー・レベルワンの持つ性質をさらに高めています。

将来の可能性

- エリア全体の座席を一新
- 臨時のグループ学習のため自立式の書き込みボードを用意する

オロスコ・ルーム

ベリー図書館が建設される前、オロスコ・ルームは図書館で最も使用頻度の高い学習エリアのひとつでした。そこは静かな学習場所がほしい学生にとって「見たり見られたり」する場であり、また皆が通るホールにあるので、そこを通る友達に会える場所でもありました。ベリー図書館の開館で、オロスコ・ルームの使用は激減しました。今では主に、中間試験や読書期間や期末試験のとき、他の場所が満席になってしまった場合の予備の学習スペースとなっています。このエリアには大きな長い木のテーブルがいくつかあり、照明は学習にも壁画を見るのにも理想的とはいえ、電気のコンセントも不足しています。使用者の減少とともに、今では学生は、オロスコ壁画の力強い絵を定期的に見ることもなくなり、ダートマスにいる間に 1、2 回しかそこへ行ったことがないという学生もかなりいます。

提案

- 部屋の両端のテーブルを片付け、空いた場所に、ラウンジ用の居心地のよい椅子とフロアランプを 2 組分設置する。これらは、グループ学習に気軽に使える小スペース、来館者が居心地良く座って壁画を見ることのできる場所、学生をホールへ向かわせる魅力的なスポットになる可能性がある。
- 部屋の照明を一新し、天井の照明を改善し、壁画をもっとよく見せるために壁の照明を増やし、テーブルの上に読書灯を設置する。

- 電気系統を改善し、コンピュータで長時間勉強するため電力を必要とする学生のニーズに応える。

結果

- 現在、室内照明を刷新し、電気配線を新しくしてコンセントを増やすための工事が進んでいます。座席は、すぐ上のベーカー・メインホールと同じように、最終的には、長テーブルと座り心地のよいいくつかの椅子を組み合わせることになりそうです。

プレゼンテーション練習スタジオとビデオ会議スタジオ

ジョーンズ・メディアセンター (JMC) では、図書館の持つ膨大な数のマイクロフィルム、VHS ビデオ、それに 15,000 枚余りの DVD を利用することができます。JMC にはコンピュータ・ワークステーションもあり、高性能のマルチメディア編集ソフトや様々なハードウェアが揃っており、学生や教員や職員は無料で借りることができます。デジタル・スチールカメラや、デジタル・ビデオカメラ、ボイスレコーダー、マイクロフォン、照明などもこの中に含まれています。教員はじめ、様々なパートナーと話した結果、LSSG は、教科プロジェクトでますます増加している視聴覚機器の使用をサポートする必要があると判断しました。しかしそれには、現在 JMC で利用できる貸与機器や映像編集施設だけでは足りません。現在 JMC がサポートしている映像制作プロジェクトに加えて、自分自身のプレゼンテーションの録音・録画をしたり、学外の人とのビデオ会議に参加したりするための設備があれば、学生には大きなメリットになります。作文・修辞学研究所 (IWR) はスピーチの講師を 2 名雇い、カリキュラムにスピーチの科目を増やしました。これらの教員とも協議の結果、LSSG は、デジタル・プレゼンテーション・スタジオを作れば、それは学生や教員にとってきわめて大きな価値のある資産になると判断しました。

現在、ダートマスの外国語のプログラムやクラスでは、ネイティブスピーカーとダートマスの学生間の言語学習を推進する教育ツールとして、ビデオ会議をよく使用しています。いくつかの学科 (中国語、スペイン語、ロシア語、日本語) はすでに、当校の学生と、他国にいるその言語のパートナー、指導員、講師とを結びつけるプロジェクトに関わっています。しかしこのような結びつきは、技術 (学生のいる部屋から接続するには必ずしも十分な帯域がない)、技術の利用機会 (キャンパス内では午後 5 時以降は利用できなくなる)、設備の規模の問題 (ビデオ会議設備のある講義室は 1 人対 1 人や 1 人対 2 人の対話には大きすぎて不適切) などによる制限がありました。

提案

LSSG は、デジタル・プレゼンテーション・スタジオの創設を提案しました。このスタジオには、簡単な映像録画と、後からプレゼンテーションを見直す設備を揃えます。デジタル・

プレゼンテーション・スタジオは、スピーチ・クラスの学生だけでなく、プレゼンテーションの準備をする、あるいは教育のために映像を録画し、それをネットにアップしたいと考えているすべての学生、教員、職員の役に立つでしょう。また、スタジオには録音ブースとして利用したり、1-3人がデスクトップでビデオ会議を行ったりするとき利用できるように、1、2個のサウンドブースを作ります。

結果

現在、この提案の実現に向けて取り組みが行われている最中です。私たちは特に、ワンボタン・スタジオ (<http://mediacommons.psu.edu/onebutton>) を作ったペンシルバニア州立大学の取り組みを検討しています。この図書館の中の2つの部屋を使って、ワンボタン・スタジオにすることにしています。今後2-4年の間にJMCは改装計画も立てています。その改装によって、録音とビデオ会議のスペースを作ることを考えています。

おわりに

2000年にダートマスカレッジにベリー図書館が増設されて、ベーカー・ベリー図書館複合施設となったため、多くの学術支援組織を一堂に集結させることが可能になりました。ダートマスカレッジ図書館、コンピュータサービス、作文・修辞学研究所 (IWR)、ダートマス学習推進センター (DCAL) は、すべてが緊密に協力し合い、大学が使命とする教育、学習、研究の内容向上のための、資源や、サービスや、プログラムを提供しています。私たちはこれまでの経験や観察してきた事柄から、テクノロジーの発達により、学生が勉強し、学習し、人と交わる方法が変わっただけでなく、そういった学生の活動に私たちの施設がどのように貢献できるか、あるいはどのような妨げになり得るのかということも変わったということに気付きました。ベーカー図書館は「大学が、学生の知性と人格を形作る不動の存在と自負していた」ときに建設されました。 (*Revitalizing Baker Corridor*, 8) ベリー図書館の設計者たちは、個人的権利の向上という理念をより重視し、学生たちが、グループ学習のための部屋はそれほど必要とせず、ノート型パソコンで各自が独立して勉強に励むようになると想定しました。今日、私たちは構成主義や能動的学習の考え方から影響を受け、個人用の学習スペースは、共同作業のためのスペースで補完する必要があると考えています。ダートマスカレッジの図書館は、パートナーとの協力のもと、たえず何をすべきか、それをどのように行うべきかについて繰り返し評価する機会を追い求め、進化し、学生と教員のニーズの変化に順応しつつ、学術活動のキャンパスの中心であり続けようと努力しています。

付録

Berry Information–Reference Desk Planning Group Final Report

John Cocklin, Heather Gere, Laura Graveline, and Kathy Kitowski

April 1, 2009.

Library Learning Spaces Study Group Report

Laura Barrett, Malcolm Brown, Ridie Ghezzi, Anthony Helm, Joshua Kim,
and Cynthia Pawlek

February 17, 2010.

Revitalizing Baker Corridor

A Report from the Students in English 96

Dartmouth College. March 2005.